

JAバンクあきた JA全農あきた

児童らに教材本など贈る 食や農 理解深めて



JAバンクあきたとJA全農あきたは10日、食や農を学べる教材本や下敷きなどを県に贈った。県内の小学校と特別支援学校の5年生に配り、授業で活用してもらう。

教材本は食と農業の関わり、農畜産物の産地などをイラストや写真も交え紹介。従業員数の減少や農地の

荒廃といった課題も解説している。下敷きは県内JAの代表的な青果物を地図形式でまとめ、コメ作りを疑似体験できるゲームのQRコードなども載せた。日本の食糧自給率の低下を伝える冊子も寄贈した。

この日はJAバンクあきたを構成する農林中央金庫秋田支店の芝山勝二支店長と、全農あきたの桑原憲之副本部長が県庁で谷剛史副知事に目録を手渡した。

芝山支店長は「食を育むことの大切さを知り、農業県秋田への理解を深めてほしい」とPR。桑原副本部長は「生産者の苦労や思いを知ってもらい、食に興味を持ってもらえたらうれしい」と話した。

谷副知事は「子どもたちが本県の農業に誇りを持てるツールになる。教育現場でしっかり活用する」と謝辞を述べた。(出澤陽立)

(令和8年4月11日(土)秋田さきがけ新聞より一部抜粋)